

第5回 オープンサイエンス推進に関するフォローアップ検討会

議事概要

1. 日 時：平成28年2月19日（金）15:00～17:00

2. 場 所：中央合同庁舎8号館6階 623会議室

3. 出席者：（敬称略）

有川（座長）、黒川、小島、谷藤、林、藤井、村山の各構成員、森本統括官、中川審議官、笹井参事官、真子補佐、小谷補佐、盛岡主査

1. 議事

（1）プレゼンテーション

2名の有識者から、オープンサイエンス推進に向けた取組について、プレゼンテーションが行われた。

① 「データサイエンス共同利用基盤施設 データサイエンス・オープンサイエンスに向けた情報・システム機構の取組み」（情報・システム研究機構 北川源四郎 機構長）

<発表のポイント>

① データ共有基盤：生命科学-ライフサイエンス統合データベースセンター（DBCLS）、極域科学- Pansy Data Analysis Center 等

② データ解析基盤：モデリング・データ解析基盤、データ同化：モデルとデータの統合、ゲノム解析支援センター（H28より）、e-サイエンス基盤構築 等

③ 人材育成：データサイエンティストの育成方法、新領域融合研究センターのプロジェクト、データサイエンス共同利用基盤施設（H28年度からの取組） 等

④ 「JAMSTECにおける海洋データ管理について」（海洋研究開発機構 華房康憲 次長）

<発表のポイント>

① 海洋分野でのデータ共有の例、データポリシー、データ管理体制

② データ公開までの流れと公開状況、データ管理の実際と公開前の確認、データ公開サイトの構成と公開状況 等

(2) 事務局説明

事務局より、「G7茨城・つくば科学技術大臣会合」議題について説明があった。

(3) 主な意見等

上記のプレゼンテーション及び事務局説明を踏まえた意見交換が行われた。

(本検討会で議論及び検討すべき事項の確認)

研究データの共有化という方向性になった場合、国の政策として、それをどのように維持していくのが課題となりうる。

人材育成にあたっては、例えば、データを解析する人材のキャリアパスの構築の検討が必要である。

オープンサイエンスにおけるルールや大きな方針は政府が大枠を決定し、ボトムアップで研究者が上手く解釈できるようステークホルダー間での対話が必要である。

オープンサイエンスを進めるにあたっては、大きな方針がトップダウンで決定しても、個々の研究者の努力に頼らざるを得ない。研究者自身の課題として捉えて、例えば、研究のプロセスにおいて、新たな研究成果の発見につながることや評価に関わる、研究者自身が評価され次の研究活動につながるといった、循環を作っていくことが大事である。

4. その他

今回は3月30日(水)15時から開催する。